

カンキツヒメヨコバイの加害は大豆に株の萎縮症状を引き起こす

利用対象：指導者、普及指導員

- ◎ 2014 年に大豆栽培ほ場で株が萎縮し、葉が黄化する症状が発生して問題となりました。この症状はカンキツヒメヨコバイが大豆を加害することで発生することを明らかにしました。
- ◎ この症状はカンキツヒメヨコバイが加害している期間にだけ発生することから、本種により媒介される病害ではなく、本種の吸汁そのものにより発生することを明らかにしました。
- ◎ カンキツヒメヨコバイは大豆ほ場で普通に発生していることが現地調査で確認されています。本種の密度が低い場合は萎縮症状の発生は認められませんが、密度が高い場合は萎縮症状の発生が確認されています。



カンキツヒメヨコバイ成虫

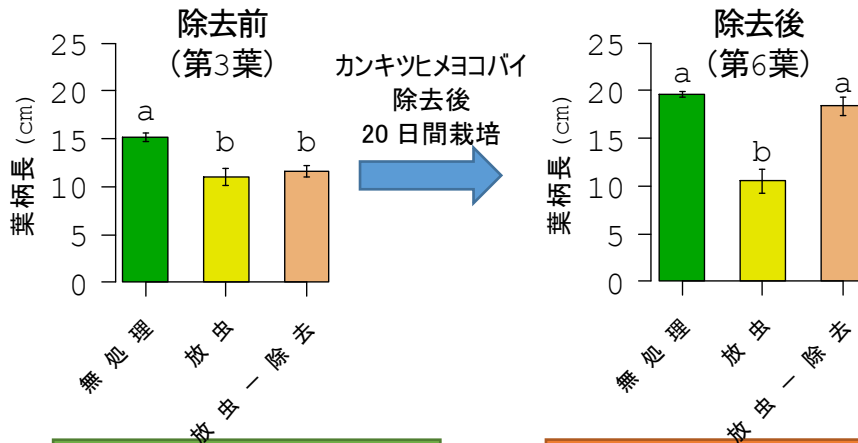


カンキツヒメヨコバイ幼虫



現地大豆ほ場で発生した萎縮症状

カンキツヒメヨコバイの加害が大豆の葉柄長に与える影響



① 加害期間内に展開した葉の葉柄長は抑制される

カンキツヒメヨコバイの加害により萎縮症状が発生する

② 成虫を除去した後に展開した葉の葉柄長は抑制されない

カンキツヒメヨコバイに媒介された病害ではない

放虫：カンキツヒメヨコバイ成虫 1 頭/株に 37 日間加害させて栽培した大豆

放虫-除去：カンキツヒメヨコバイ成虫 1 頭/株に 17 日間加害させた後、成虫を除去して 20 日間栽培した大豆

無処理：カンキツヒメヨコバイに加害させず 37 日間栽培した大豆

棒グラフ上のアルファベットは、分散分析後、TukeyHSD 検定により、同一アルファベット間に有意差がない ($p > 0.05$) ことを示す。

お問い合わせ先	三重県農業研究所 農産物安全安心研究課 電話 0598-42-6360
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm